



報道関係者各位

2011年6月27日

ガルデルマ株式会社

「ニキビは皮フ科へ」の意識が進む

受診患者数 15%増 約7割が効果を実感

医療機関を受診した感想は「もっと早く受診を」と「効果が高い」

ガルデルマ株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役：ウンベルト・C・アントゥネス）は、尋常性ざ瘡（以下ニキビ）罹患患者数の把握と医療機関でのニキビ治療に対する患者の意識調査を12～35歳の一般男女約5,000人を対象に実施しました。（調査A・Bの2種類。2ページの調査概要をご参照ください。）これらの調査によって、新たに医療機関でニキビ治療をうけた患者さんの数や受診後の感想、国内推定罹患患者数について最新の情報が得られました。

（受診患者数：過去1年間ニキビ治療のため医療機関を患者した人の数）

（推定罹患患者数：現在、ニキビがある人の数）

《受診患者数 15%増加 254万人が病院へ「ニキビは皮フ科へ」の意識が進む》

（調査Aの結果より）

2010年5月よりニキビ患者さんのQOL（生活の質）向上のため、弊社はニキビ疾患啓発キャンペーンを実施してきました。

その結果、過去1年間にニキビ治療のため医療機関を受診した患者さんの数は15%増加し、254万人に達しました。

2008年10月に国内初のニキビ治療外用レチノイドが販売され、日本のニキビ治療が大きく変化して以来、「ニキビは皮フ科へ」の意識が進みつつある結果となりました。

《約7割が医療機関での治療のメリットを実感》（調査Bの結果より）

医療機関でニキビの治療を受診した患者さんに治療効果を尋ねたところ、71.6%の患者さんが「治療効果を実感した」と回答しました。治療効果を実感した具体的な内容は「ニキビが小さくなった」の38.9%を筆頭に、「ニキビの赤みがなくなった」等のニキビ症状の改善に加え、「なかなか治らなかったニキビが改善した」（26.6%）など悩んでいたニキビの状態の変化を患者さんは実感している結果となりました。（図1）

《受診後の感想「もっと早く受診を」と「効果が高い」》（調査Bの結果より）

医療機関でニキビ治療を受けた後の感想では「もっと早く病院に行けば良かった」という声が33.1%と最も多く、「市販薬やニキビ用化粧品より効果が高い」（29.3%）とセルフケアよりも医療機関での治療にメリットを感じる患者の声が明らかになりました。（図2）

さらに「病院に行くのを周囲に勧めたい」との声も寄せられていることで、今後、医療機関での治療が広がりを見せることも伺えます。

《ニキビの国内推定罹患患者数は推定 1,500 万人》（調査 A の結果より）

今回実施した調査結果を基に日本の人口構成比から罹患患者数推定値を算出したところ、国内におけるニキビの罹患患者数は約 1,500 万人と推定されます。

ニキビは罹患患者の QOL（生活の質）を下げると報告されています*1。特に感情面での QOL の障害はアトピー性皮膚炎と同程度であり*2、その悩みは深いと推測されます。一方、疾患としての認識は低く、医療機関での治療の有用性は知られていないのが現状です。

今回の調査で、過去 1 年間に 254 万人のニキビ罹患患者さんが医療機関を訪れ、そのメリットを実感していることが明らかになりました。しかし欧米諸国と比べ日本では「ニキビを医療機関で受診する」という意識はまだ低い現状です。（表 1）

ガルデルマ株式会社は、ニキビ疾患啓発キャンペーンを通じて、ニキビを罹患した患者さんに、一人で悩まず、自己対処で済ませずに積極的に皮膚科による治療を受け、QOL をより向上していただくため、引き続き啓発活動に取り組んで参ります。

《調査概要》

	調査 A	調査 B
実施時期	2011 年 1 月	2011 年 4 月
調査対象者	12～35 歳の男女 5,278 名	12～35 歳の男女 4,844 名
調査エリア	全国	全国 (除く北海道・東北 6 県 (青森/岩手/宮城/秋田/山形/福島)・茨城県)
調査手法	インターネット調査	インターネット調査
ウェイトバック*の方法について	性年代×エリア人口構成比を元にウェイトバック集計	性年代×エリア人口構成比を元にウェイトバック集計

*調査上の数値が、実際の世間一般（母集団）の縮図となるように、性別・年代・地域ごとの集計サンプル数にウェイト値を掛けている。

受診率(%) = 1 年以内受診者数 / 推定罹患患者数 × 100

推定罹患患者数 = 対象年齢人口数（統計局 2009 年 10 月 1 日データ） × 現在罹患率（%）

※1 川島 眞， 他：臨床皮膚科，62，673，2008

※2 Finlay, A.Y., et al. : Clin. Exp. Dermatol., 19, 210, 1994

以上

■ 調査結果

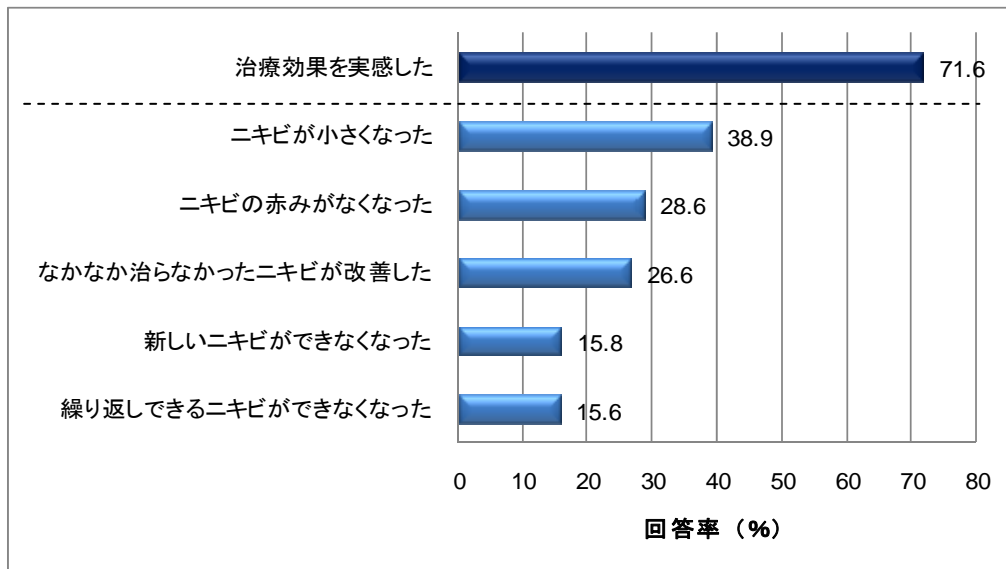


図1 医療機関受診後に実感したニキビの症状の変化
(調査 B の結果より：受診経験者 n=896, 複数回答)

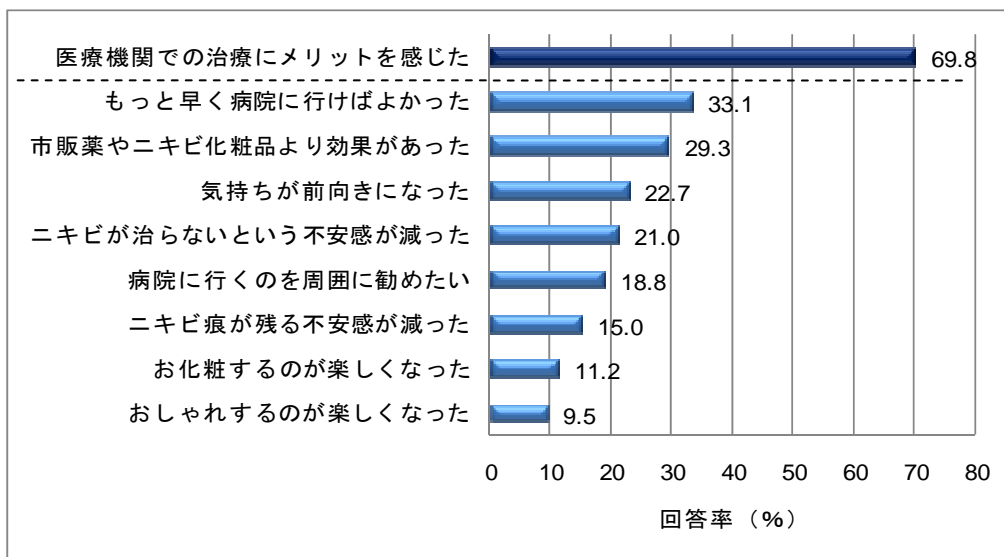


図2 医療機関受診後の感想
(調査 B の結果より：受診経験者 n=896, 複数回答)

■ 参考資料

表1 各国のニキビ罹患患者受診率(% : ニキビ罹患患者に占める割合)

国	フランス	イタリア	韓国	米国	ドイツ	日本
治療意向(%)	82	82	71	74	77	57
受診率 (%)	41	39	29	23	20	14

Source: Internet research by Dentsu 2007, GfK patient flows by Galderma Corporate 2006

日本の受診率が低い理由として、昔からニキビが皮膚疾患としての認識が低いこと、従来から医療機関で保険適応として使用されている医療用医薬品の種類が海外に比べて少なく、皮膚専門医師からも抗菌薬を主体とする薬剤治療の限界が指摘されています。(川島眞：日本のニキビ治療の新時代. 治療 91 : 541-543, 2009)

■ ニキビ疾患啓発キャンペーンについて

日本でも世界標準の新しいニキビ治療が皮膚科で受けられるということ、一人でも多くのニキビに悩む方にお知らせするため、2010年より私たちはニキビ疾患啓発キャンペーンを実施してきました。キャンペーンのイメージキャラクターには、タレントの柳原可奈子さんを起用し、新TV-CM「ニキビ都市伝説」篇(15秒)を、2011年5月9日から放映しています。「ニキビは自分でつぶすと早く治る」という「都市伝説」とも言える、ニキビ治療に対する誤解を解消し、「お医者さんでしっかり治療しよう」、「ニキビは皮フ科へ」、「健康保険等が使えます」というメッセージを発信し、受診の必要性を広めます。

【キャンペーンサイト ニキビは皮フ科へ.JP】

病院でニキビ治療を受けた体験談や皮膚科医からのメッセージ、病院検索ページなどニキビに関する啓発情報を掲載しています。

【PC版】ニキビは皮フ科へ.jp : <http://www.nikibi-hifuka.jp/>

【携帯版】ニキビは皮フ科へ.jp : <http://www.nikibi-hifuka.jp/m/>